

経営比較分析表（平成28年度決算）

熊本県 阿蘇市

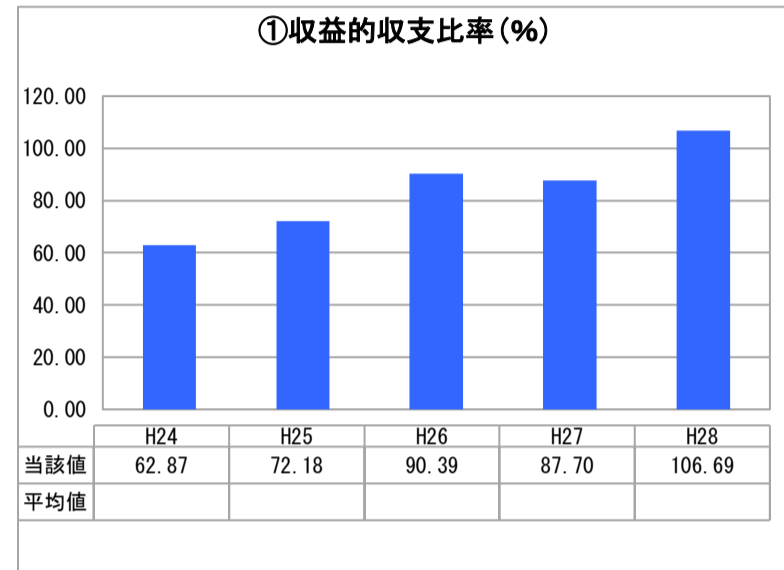
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 公共下水道 | Cd1 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 該当数値なし | 21.64 | 51.77 | 2,538 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 27,204 | 376.30 | 72.29 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 5,850 | 3.81 | 1,535.43 |

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



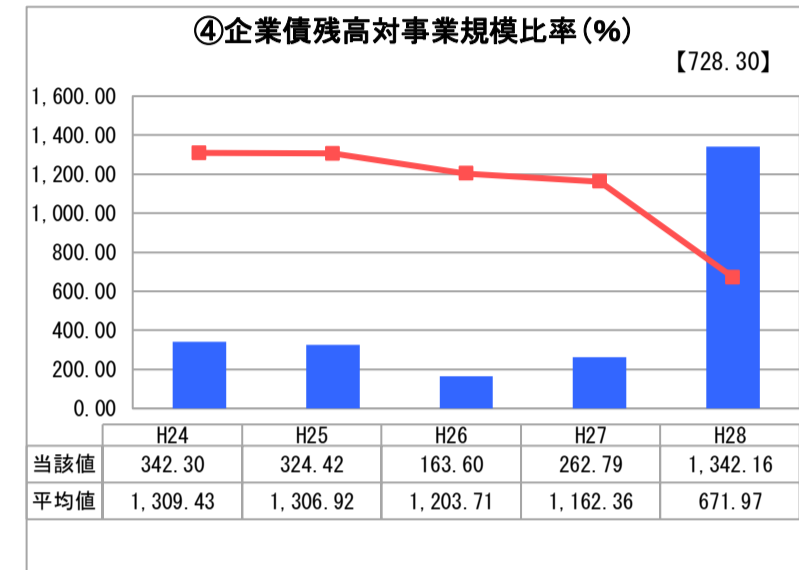
「単年度の収支」



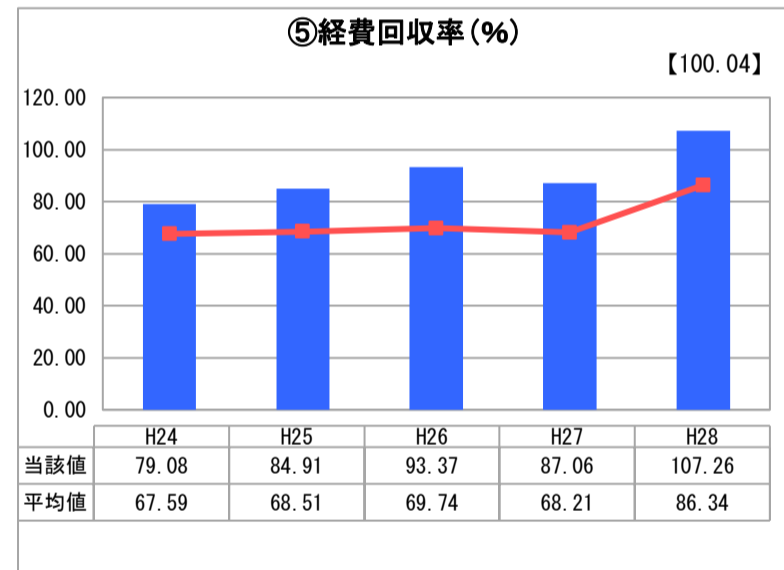
「累積欠損」



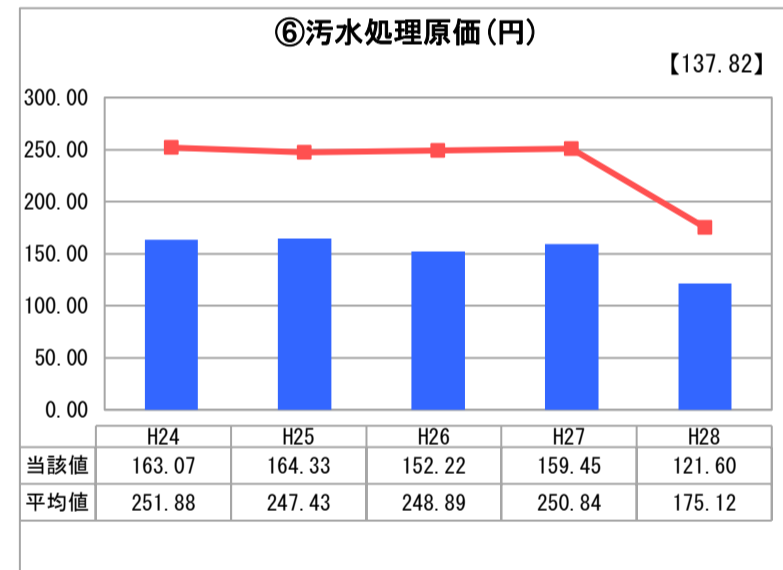
「支払能力」



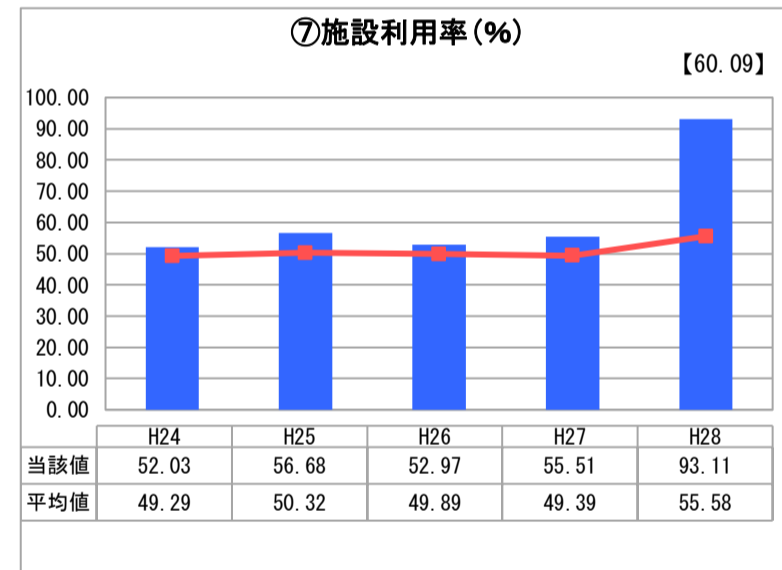
「債務残高」



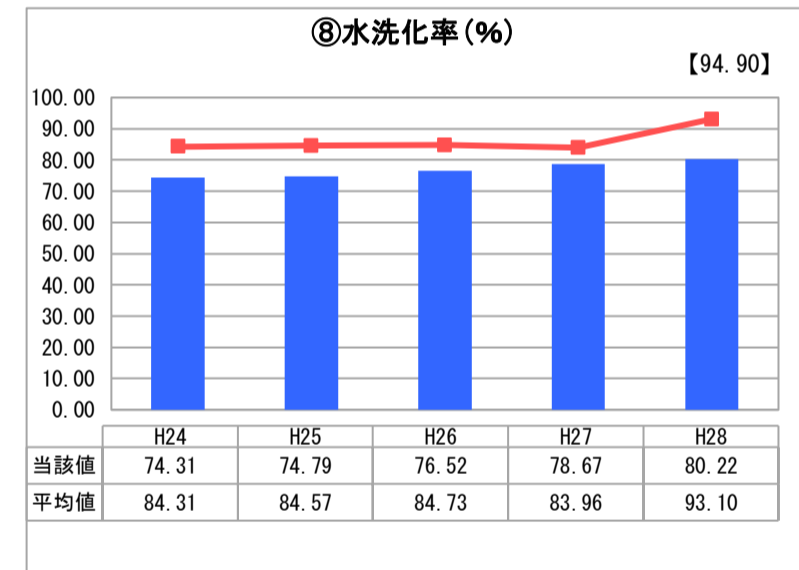
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

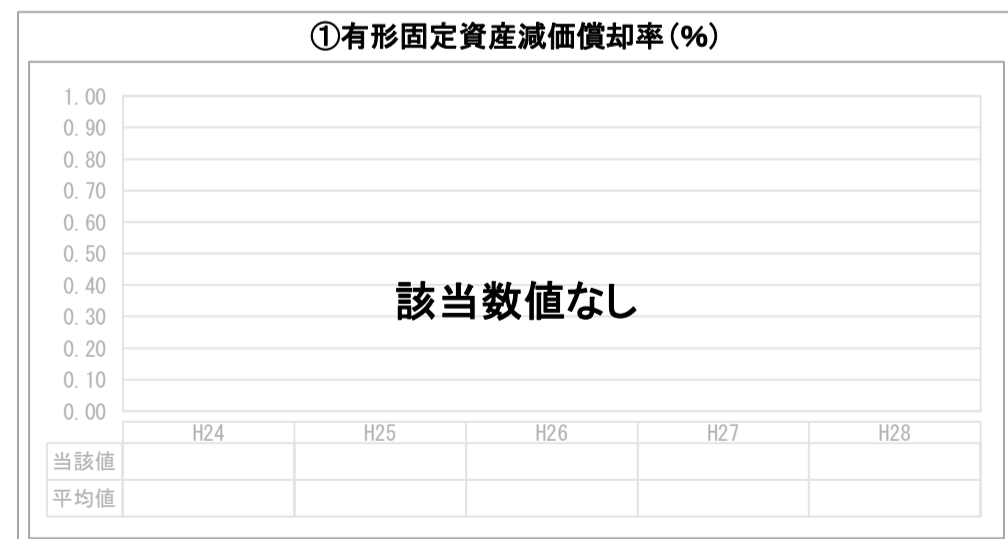


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

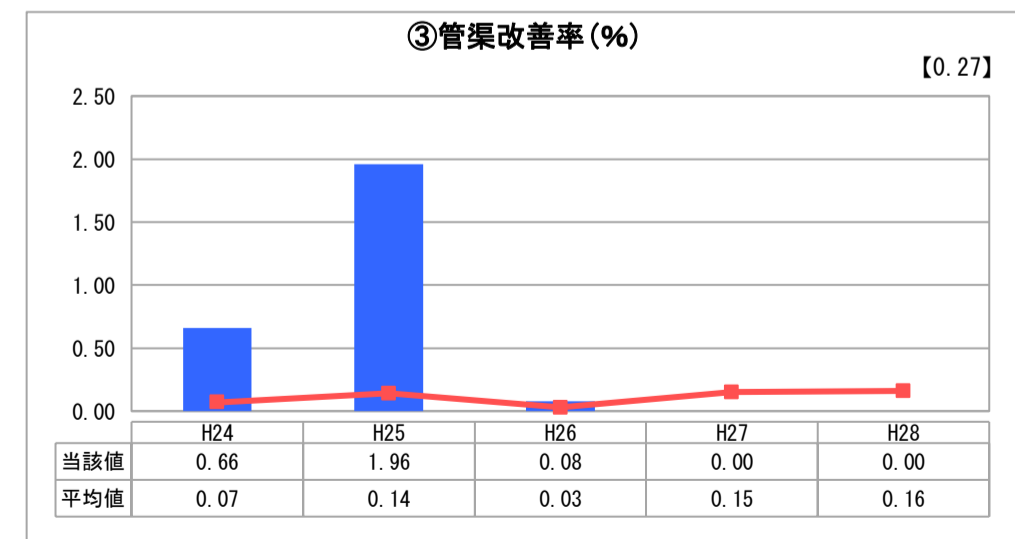
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

管更生に伴い不明水等の流入は抑制され、有収率は概ね、横ばいとなっていたが、震災による終末処理場・污水管渠に被害が出たため、災害復旧・修繕等を優先的に行っている。
また、包括的民間委託も導入しているため、経費の抑制、人員の削減、費用の削減も行っている。
平成28年度においては、終末処理場、污水管渠等の改築更新及び災害復旧により、起債借入が増加している状況である。
今後は、「経営健全化計画」の策定を進め、計画的な施設の改築更新、施設利用者の啓発を行い、会計の負担抑制に努めていく。

2. 老朽化の状況について

終末処理場においては、改築更新を計画的に行っているが、予算等の状況、震災による復旧工事・改築により、当初計画より遅延している。污水管渠についても、緊急度の高い管渠は更生しているが、震災の被災状況に応じて緊急的に復旧・修繕を行いながら、流入水の状況等を鑑み、計画的に調査を行い緊急性の優先順位をつけ、改築更新を随時行っていく。

全体総括

施設の老朽化による改築更新費用の増大や少子高齢化による利用料金の減収が懸念されることから、今後、経営状況は厳しさを増すことが予想される。このため、「経営健全化計画」及び「経営戦略」を平成32年度までに策定し、老朽施設の計画的な改築更新、利用料金の見直し、下水道施設接続の啓発に積極的に取り組んでいく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。